

# 令和2年度 学力向上プラン

学校名 中央区立佃中学校

## 学校の教育目標

- |               |                |               |
|---------------|----------------|---------------|
| ・深く考え 実行する生徒  | ・自ら学び 伸びていく生徒  | ・励まし合い 助け合う生徒 |
| ・礼儀正しく 規律ある生徒 | ・個性豊かで たくましい生徒 |               |

## 学校経営方針（確かな学力向上にかかわる内容）

未来をめざす生徒たちに「確かな学力」をつける

①「知徳体」校内研究を通じた授業改善 ・ 毎授業における学習目標と振り返り ・ 問題解決学習 ・ 話し合い活動 ・ 体験学習

②少人数授業の充実（教科部会） ③ICT（デジタル教科書）、学校図書の活用（朝読書） ④区講師の活用

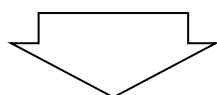
令和元年度「学習力サポートテスト」「東京都学力向上を図るための調査」「全国学力・学習状況調査」の結果分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	<p>○2学年の「学習力サポートテスト」において、全国の平均正答率が70.4に対し72.1と全国正答率を上回り良好であるが、カテゴリー別正答率の観点において、「関心・意欲・態度」や「話す・聞く能力」が全国平均正答率を若干下回っている。</p> <p>○3学年の「学習力サポートテスト」において、全国の平均正答率が66.4に対し70.4と全国正答率を上回るなど全ての分野で良好であるが、カテゴリー別正答率では、「言語についての知識・理解・技能」や「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では全国の平均正答率を若干上回る程度であった。</p> <p>「児童・生徒の学力向上を図るための調査」において都の平均正答率を上回っているが、知識・理解については若干下回っている。</p>	<p>○小学校で学習してきた「国語」が苦手な生徒が多い。特に、自分の考えや意見をまとめて発表したり、書くことが苦手な生徒が多い。正解不正解にかかわらず、まず自分の意見を書く習慣を身に付けさせる。また、グループ発表を経てから全体発表にするなど発表の仕方も工夫する。</p> <p>○「漢字」や「文法」に対して苦手意識をもつ生徒が多く、自ら取り組む姿勢に欠ける。授業の最初に漢字の確認テストを行っているがそれを継続するとともに、文法の小テストなども繰り返し行うことで理解と定着を図り、苦手意識を克服する。</p>
数学	<p>○2学年の「学習力サポートテスト」において、全国の平均正答率が71.9に対し76.3と全国正答率を上回るなど全ての分野で良好であるが、基礎・活用の分野の「基礎」においては全国平均と接近している。</p>	<p>○小学校での学習が概ね定着していると考えられる。基礎学力が定着していない生徒に対しては、授業での支援を充実させて、取り組めば分かる、といった体験をさせるようにする。</p>

	<p>○3学年の「学習力サポートテスト」において、全国の平均正答率が53.7に対し58.0と全国正答率を上回るなどほとんどの分野で良好であるが、カテゴリー別正答率の領域分野の「資料の活用」が若干下回っている。</p> <p>「児童・生徒の学力向上を図るための調査」において都の平均正答率を上回っている。</p>	<p>○資料の活用の領域は、1学年末に学習した内容であるため、復習が充分でないと考えられる。既習事項であっても、用語や公式について繰り返し提示することで、理解と定着を図る必要がある。</p>
社 会	<p>○2学年の「学習力サポートテスト」において、全国の平均正答率が63.6に対し64.7と全国正答率を上回り良好であるが、カテゴリー別正答率についての解答形式の「短答」と「記述式」において改善の余地があり、今後の課題である。</p> <p>○3学年の「学習力サポートテスト」において、全国の平均正答率が54.9に対し54.6と全国正答率若干下回っている。さらに、カテゴリー別正答率を見ると「基礎」は全国を上回っているが「活用」においては若干下回っている。多くの分野で改善の余地がある。</p> <p>「児童・生徒の学力向上を図るための調査」において都の平均正答率と同程度であるが、「思考・判断・表現」において0.4下回っている。</p>	<p>○記述式の問題において課題が残る要因として応用力の不十分さがあげられる。したがって、言語活動及び資料活用能力向上のためのグループ学習、個々で行う資料の活用に関する学習を各学期5回以上授業に取り入れる。</p> <p>○基礎・基本の定着が不十分だと考えられる。これらは日々の家庭学習等の不足が要因と考えられる。したがって、宿題、授業での基礎・基本の復習を繰り返し行う。また、グループ学習、資料の活用法をさらに授業に取り入れ、思考・判断・表現力を身に付ける。</p>
理 科	<p>○2学年「学習力サポートテスト」において、目標値が60.5である。全国の平均正答率が61.4に対し56.6と下回っている。カテゴリー別正答率をみても全国正答率を全ての分野で下回っている。</p> <p>○3学年「学習力サポートテスト」において、目標値が57.4である。全国の平均正答率が58.6に対し58.0と下回っている。カテゴリー別正答率を見ると、領域分野では「生命」が観点分野では「観察・実験の技能」と「自然事象についての知識・理解」が解答形式では「選択」が全国正答率を下回っている。</p> <p>「児童・生徒の学力向上を図るための調査」において都の平均正答率と同程度である。</p>	<p>○日常生活の中で使用されている器具などを具体的な現象と結びつけて捉えられない。実験・対話的学習を通して、つながりを意識させる。</p> <p>○植物の分類など、実物観察したり、視聴覚資料を活用したりして特徴をつかませる機会が少ない。</p> <p>観察や実験の目的をしっかりと意識させ、結果から考えさせる時間を増やす。班の中で話し合い、思考、表現する時間を多く取る。</p>
英 語	<p>○1学年生徒を対象とした「授業アンケート」では「話す」・「聞く」能力に関する取り組みは積極的であるが、「読む」・「書く」能力については定着に時間がかかる。</p>	<p>○小学校の「聞く」「話す」中心の学習で比較的会話に関する能力が高い。しかし「読む」「書く」には取り組みづらさを感じている生徒も多く、意欲的に学</p>

	<p>○2学年「学力学習力サポートテスト」において、全国の平均正答率が61.5に対し68.9と全国正答率を上回るなど全ての分野で良好であるが、カテゴリー別正答率を見ると、領域についての「読むこと」に関する事項では全国の平均正答率を若干上回る程度であった。</p> <p>「児童・生徒の学力向上を図るための調査」において都の平均正答率を大きく上回っている。</p>	<p>ばせる必要がある。視聴覚機器を活用し生徒が興味を抱く導入方法や内容を取り入れて、4技能をバランス良く育てる。また反復学習で定着を図る。</p> <p>○丁寧に英文を読む練習を取り入れてきた。丁寧に読むがあまり、時間がかかりすぎている。そこから、限られた時間の中で読む練習や、必要などを抜き出すなど、英語で英語を読む練習を繰り返し行っていく。</p>
保健体育	<p>「東京都児童生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等の調査」の結果から、1年女子を除き東京都の平均値を若干下回っている。</p> <p>○男子は長座体前屈・持久走・50m走等において都の平均値を下回っていた。</p> <p>○女子は1年生が持久走、2.3年生は持久走・50m走・立ち幅とび・ハンドボール投げ等で都の平均値を下回っていた。</p>	<p>○「東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」によると、男女ともに基礎的・基本的体力が備わっていない。そこで男子は授業時の準備運動を大切に行い、柔軟性を養わせる。種目ごとに、主運動に繋がる補強運動を展開し、平均値を上げていきたい。</p> <p>○女子は準備運動から瞬発力を鍛える内容を取り入れる。グループ活動を取り入れ、生徒同士自発的に活動に取り組ませる。</p>

学力向上に向けた視点	年度末までの目標及び指標
①学力基盤	授業評価アンケート・学校評価アンケート（生徒・保護者向けアンケート）において、「基礎・基本を身に付けているか」という項目等が80%を目標とする。
②授業改善	学校評価アンケート等において、「授業改善に努めているか」という項目が生徒・保護者ともに85%を目標とする。
③教員の指導力	授業評価アンケート・学校評価アンケート・外部評価委員会等において、「授業や補習を工夫し、生徒の学力を高め、個性を伸ばしてくれているか」という項目等が80%を目標とする。
④家庭との連携	保護者アンケートにおいて、1時間以上家庭学習をしている生徒（塾等を含む）が1年生では50%以上、2年生では60%以上、3年生では70%以上を目指す。
⑤体力向上	「東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」の生活運動習慣等調査結果で、東京都の平均値を上回る。



## 【目標達成のための具体的な取組内容】

①学力基盤	
取組Ⅰ	<p>年間指導計画・評価計画・学習の手引きの活用と年間を通じた授業時数の適正化。</p> <p>重点的な指導や繰り返し指導等の指導計画、英語と数学における少人数指導等の指導体制、一人一人の生徒の理解の程度や興味・関心に応じた指導の充実、ICTの効果的な活用など指導方法・評価方法を工夫。教員向けアンケート（以下、「自己評価」とする）、生徒、保護者向けアンケート（以下、「学校評価アンケート」とする）により検証する。</p>
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝読書 朝の時間を使って、本を読む習慣をつける。読書を通して先人の知恵を学び、活字に慣れ親しみ、読解力や想像力・創造力の向上を目指す。</li> <li>・校内研究「東京2020の機会を生かした国際教育の推進」 学習目標を明確にし、学び合いの力を育てることで、グローバルな視点をもつ生徒を育成する。豊かな国際感覚を醸成し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や、相手の意図・考えを的確に理解した上で、論理的に説明したり、反論・説得したりできる能力を育成する。</li> <li>・その他 放課後や夏季休業日等の長期休業を利用し補習授業（国・社・数・理・英）を実施。英語検定、漢字検定、数学検定に向けた取組や質問教室。</li> </ul>
取組Ⅲ	<p>年2回実施する生徒対象の授業評価アンケート（1学期末、2学期末）および教員対象の研修会（夏季休業中、3学期始め）の活用。</p> <p>過去のアンケート結果や学力調査結果（中央区サポートテスト）と比較し検証する。</p>

②授業改善	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間、本時の目標と振り返りを生徒に分かりやすく提示し、授業への取組意識の向上を図る。達成できたことや課題に気づき、新たな目標をもたせる。</li> <li>・理科の授業において、実験を通じた対話的な授業を実践する。</li> <li>・社会の授業において、問題解決型学習、また基礎・基本の徹底学習を行う。</li> </ul> <p>以上の項目について生徒対象の授業評価アンケートにより検証する。</p>
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開授業、研究授業、授業評価アンケートの報告会等を実施し、教員相互による検証。</li> <li>・少人数の班を編成し、グループワークや話し合い活動の充実。学校評価アンケートや年間5回の研究授業を通して検証する。また、研究とも関連させ、校内研修会の中で改善策の検討および共有を図っていく。</li> </ul>
取組Ⅲ	<p>外部評価による検証。</p>

③教員の指導力	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の手引き、生徒による授業評価アンケート、通知表、教科面談、学習力サポートテスト、学力向上プラン、校内研修を活用したPDCAの実践</li> <li>・知（確かな学力）・徳（豊かな心）・体（健やかな体）をバランスよく育てる授業</li> </ul>
取組Ⅱ	管理職による授業観察、及び指導・助言
取組Ⅲ	教育会や外部における各研修会、また校内研修で授業改善策の考案やその共有などを図る。

④家庭との連携	
取組Ⅰ	三者面談において、各教科の提出物の提出状況や実施状況などを確認する。また、希望者を対象に教科面談を実施。また状況に応じた個別面談や家庭訪問。
取組Ⅱ	毎日の生活記録、定期考査前の学習計画表の活用、ノート提出などの点検活動、各教科からの課題等により家庭学習の習慣化や質の向上を図り、自発的な学習習慣を身に付けさせる。学校評価アンケートにより検証。
取組Ⅲ	月1回の学校だより、毎週末の学年だよりを通しての情報提供および啓発

⑤体力向上	
取組Ⅰ	保健体育科授業における準備運動の充実。運動量の確保と質的改善に向けた授業改善。
取組Ⅱ	骨密度測定を行い、自分の食生活・運動習慣を振り返る。
取組Ⅲ	運動部を中心とした部活動の奨励。練習方法の工夫。